



注目ポイント

- ✓先週は、関税政策を巡り米中双方が態度を軟化するとの報道を受けた、貿易摩擦の緩和期待や、トランプ米大統領がパウエルFRB議長について、解任するつもりはないと話したことで、FRBの独立性が損なわれて金融市場が不安定化すると警戒も緩和し、リスクオフの巻き戻しの展開となり、株高&円安ドル高が進展した。
- ✓トランプ関税に対する警戒感が後退する中で、今週から日本では悪くないタイミングで決算発表シーズンを迎える。株価が不安要素をある程度織り込んでいるため、慎重な新年度の業績見通しが示されても、悪材料視されにくく、外需株やハイテク株に見直し買いが入る可能性から、日本株は戻りを試す展開を予想。重要イベントとしては、日本では日銀決定会合(4/30-5/1)に、また米国ではGDP速報値(1Q、4/30)や雇用統計(4月、5/2)の発表などに注目が集まる。(門倉英司)

2025年4月21日 ~ 2025年4月25日

市場・指標			4月21日 ~ 4月25日		4月25日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	日本	日経平均(円)	35,835	34,110	35,706	+975	+2.8%	
	米国	NYダウ(ドル)	40,376	37,831	40,114	+971	+2.5%	
	ドイツ	DAX(ポイント)	22,318	21,045	22,242	+1,037	+4.9%	

市場・指標			4月21日 ~ 4月25日		4月25日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	日本	10年(%)	1.350	1.275	1.335	+0.050	
	米国	10年(%)	4.43	4.24	4.24	-0.09	
	ドイツ	10年(%)	2.52	2.44	2.47	-0.00	

市場・指標			4月21日 ~ 4月25日		4月25日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	米ドル(円)		144.03	139.89	143.67	+1.49	
	ユーロ(円)		163.76	160.99	163.30	+1.33	
	豪ドル(円)		92.22	89.64	91.90	+1.26	

市場・指標			4月21日 ~ 4月25日		4月25日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	日本	東証リート(ポイント)	1,732	1,698	1,703	-12	-0.7%	
	米国	NY原油(ドル)	65.09	61.53	63.02	-1.7	-2.6%	
		NY金(ドル)	3,510	3,271	3,298	-30	-0.9%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年4月28日 ~ 2025年5月2日

● 株式

戻りを試す展開

日経平均
【予想レンジ】 35,250 円 ~ 36,750 円

- 先週の日経平均は上昇。週前半は円高進行や米株安を背景に続落したが、週央からは米中貿易摩擦の緩和期待や円安進行を追い風に3連騰。週後半は、相互関税発表前の2日以来となる3万5千円台も回復した。トランプ米大統領の発言や、日米財務相会談で為替水準の目標についての具体的な言及がなかったことが、投資家心理を支えた。
- 今週の日経平均は、戻りを試す展開か。トランプ関税に対する警戒感が後退し、日本株は悪くないタイミングで決算発表シーズンを迎えた。株価が不安要素がある程度織り込んでいるため、慎重な新年度の業績見通しが示されても、悪材料視されにくい。大型連休突入で積極的な売買は手控えられようが、外需株やハイテク株に見直し買いが入る可能性から、今週の日経平均は戻りを試す展開を予想。

● 金利
(国債)

もみ合いか

10年国債利回り
【予想レンジ】 1.290 % ~ 1.370 %

- 先週の国内金利は上昇。週前半は米金利の上昇や株式市場の上昇を受けて、国内金利も上昇。その後、週央には米中貿易摩擦の緩和期待や米利下げ観測を背景に一時低下するも、週末には予想を上回る都区部CPIの結果を受け、日銀の利上げ観測が再燃。翌週に日銀の決定会合を控え、積極的に債券を買う参加者も少なかった。
- 今週の国内金利は、もみ合いか。日銀の利上げ観測が再燃したとは言え、トランプ関税による景気不透明感が強いなか、今週の日銀決定会合は「現状維持」との見方が大勢。ただし「展望レポート」でインフレ見通しが引き上がると、長期金利に上昇圧力がかかる可能性も。一方で、前週半ばから米金利が低下基調となったことが、国内金利の低下圧力になると予想されるため、今週はもみ合いとなろう。

● 為替
(米ドル)

居所を探る展開か

米ドル/円
【予想レンジ】 142.00 円 ~ 145.50 円

- 先週のドル円相場は、円安ドル高が進展。週前半は、FRBの独立性を巡る懸念から、一時1ドル=140円台割れまで円高が進行する場面も。しかし、その後は米中貿易摩擦の緩和期待や日米財務相会談で為替目標の議論がなかったことが、市場に安心感を与えドル買い戻しの流れに。週末には一時1ドル=144円台まで円安ドル高が進行した。
- 今週のドル円は、居所を探る展開か。今週、米国ではGDP速報値や雇用統計等の重要指標が相次ぎ、利下げ観測が強まればドル安の材料に。また、日銀の金融政策は維持の見通しだが、「展望レポート」では物価見通しの上方修正が予想され、円高の材料か。一方で、リスクオフモードの巻き戻しで、ドルの買い戻しの流れも起きており、今週のドル円は居所を探る展開となろう。



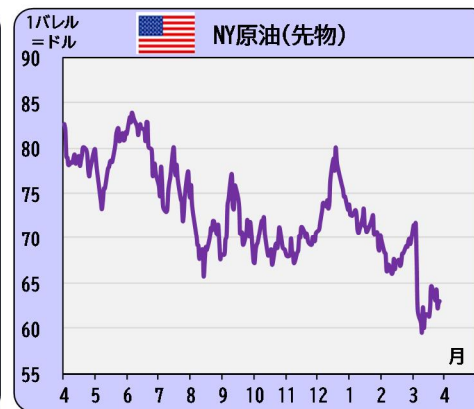
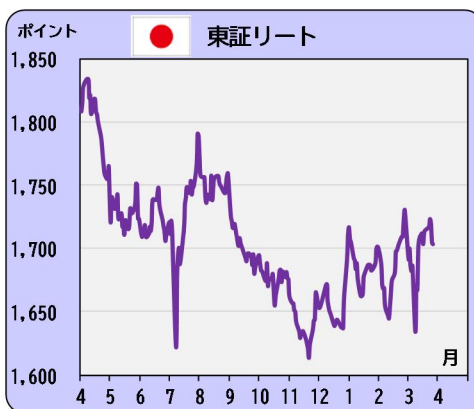
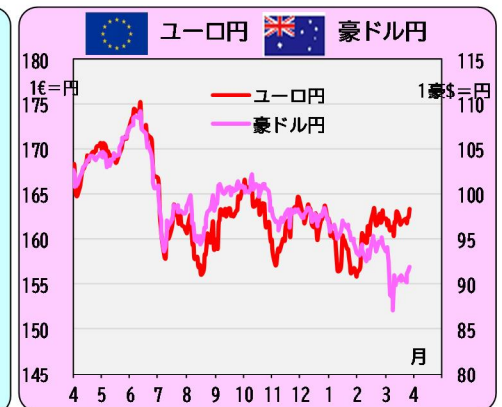
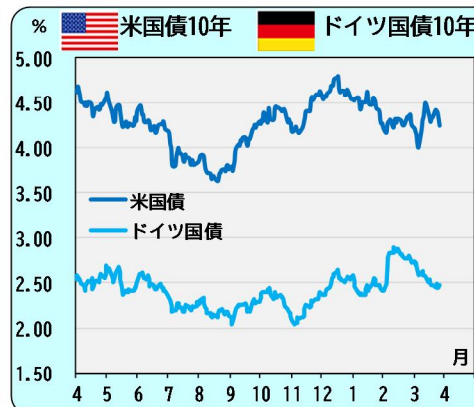
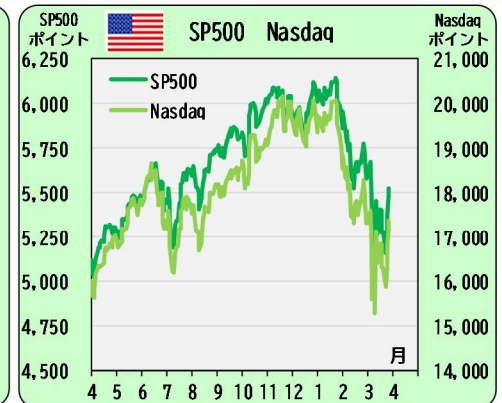
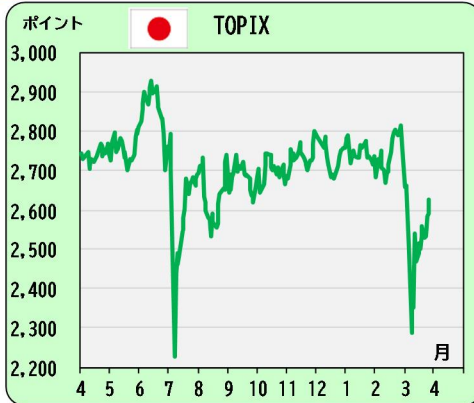
○今週の注指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国内	海外
4/28(月)		
4/29(火)	祝日(昭和の日)	米国: S&Pケースシラー住宅価格指数(2月) 米国: コンファレンスボード消費者信頼感指数(4月)
4/30(水)	日銀金融政策決定会合(~1日) 小売業販売額(3月) 住宅着工統計(3月)	米国: GDP(1~3月)速報値 米国: 個人所得・個人消費支出(3月)
5/1(木)	植田日銀総裁会見 日銀「経済・物価情勢の展望」(展望レポート)	米国: ISM製造業景況指数(4月)
5/2(金)	完全失業率(3月) 有効求人倍率(3月)	米国: 雇用統計(4月)



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

●頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。